



2020年6月12日
三井E&S造船株式会社

無人運航船の実証実験の実施について

～日本財団の「無人運航船の実証実験にかかる技術開発共同プログラム」による助成～

三井E&S造船株式会社（社長：古賀哲郎、本社：東京都中央区、以下「三井E&S造船」）、株式会社商船三井（社長：池田潤一郎、本社：東京都港区、以下「商船三井」）および古野電気株式会社（社長：古野幸男、本社：兵庫県西宮市、以下「古野電気」）は、公益財団法人日本財団（所在地：東京都港区、会長：笹川陽平／以下、「日本財団」）が実施する「無人運航船の実証実験にかかる技術開発共同プログラム」において、日本財団の助成金による支援を受け、井本船舶株式会社（社長：井本隆之、本社：兵庫県神戸市、以下「井本船舶」）、商船三井フェリー株式会社（社長：大江明生、本社：東京都中央区、以下「商船三井フェリー」）、株式会社MOLマリン（社長：稲岡俊一、本社：東京都港区、以下「MOLマリン」）および株式会社セキド（社長：大下貴之、本社：東京都国立市、以下「セキド」）とコンソーシアムを組織し、無人運航船の実証実験（以下、「本実証実験」）を実施することとなりました。

<コンソーシアムにおける各社の役割>

- ◆ 三井E&S造船
 - 「判断」「操作」機能の開発
 - 避航操船、港内操船、離着棧操船の自動化
- ◆ 商船三井
 - 全体コーディネーション、リスク評価
- ◆ 古野電気
 - 「認知」機能の開発
 - 認知センサ統合、着棧支援センサの開発
- ◆ 井本船舶
 - 実証船・船員提供、運航計画作成
- ◆ 商船三井フェリー
 - 実証船・船員提供、運航計画作成
- ◆ MOLマリン
 - 自動避航操船・自動港内操船・自動離着棧のシミュレーション作成

（裏面につづく）

◆ セキド

- 係船支援技術の開発
- ドローンを用いたヒービングラインの岸壁投下

実証航海は、三井 E&S 造船の避航操船・離着岸自動化技術や古野電気の周囲認知技術を活用して、商船三井フェリーが所有・運航する 1 万トン超の大型内航フェリー、および井本船舶が所有し井本商運株式会社が運航する 749 トン型内航コンテナ船を用いて行います。三井 E&S 造船は、この 2 船に搭載する自律操船システムを開発し、今回の無人運航船の実証実験でその機能を実証します。

三井 E&S 造船は、自律操船システムの実現より、海上輸送の安全性向上と船員の労働負荷低減・労働環境改善に貢献すべく、引き続き努力を重ねて参ります。

<実証供試船の概要>

◆ 「さんふらわあ しれとこ」

- 商船三井フェリー保有の 1 万トン超の大型カーフェリー
- 実証航路：苫小牧~大洗

◆ 「みかげ」

- 井本船舶保有船の 749 トン型内航コンテナ船
- 実証航路：敦賀~境港

<本リリースに関する問い合わせ先>

■ 三井 E&S 造船株式会社

自律操船システム事業推進室 TEL：03-3544-3345